

(様式5)

平成29年度 教職大学院派遣研修 研究報告書

派遣者番号	管 29K07	氏 名	小熊 隆一
研究主題 一副主題一	地域との協働による主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学校支援の在り方		
派遣先	東京学芸大学教職大学院	担当教官	赤羽 寿夫
所属校	東京都教育庁指導部指導企画課	所属長	建部 豊

キーワード：地域課題解決型学習 単元デザインシート 社会に開かれた教育課程

## 1 研究の背景（目的）・主題設定の理由等

これからの社会を創り出していく児童・生徒が、社会や世界と向き合い、自らの人生を切り拓いていくためには、学校の教育課程をこれまで以上に生活体験や地域生活などと密接に結び付けていくことが重要である。例えば、地域の人的・物的資源を活用し、地域や社会の具体的な問題を解決する学習活動は、児童・生徒が自ら地域への愛着を深め、主体的に地域・社会に参画する態度を養うことにつながる。教育課程そのものが地域や社会とつながることで、新しい学習指導要領が目指す「社会に開かれた教育課程」の実現が促進されると考える。

また、教育課程と社会とのつながりについては「次世代の学校・地域」創成プラン（2016）に、地域課題解決型学習の推進が挙げられている。学校が地域との協働による教育課程をもつメリットとしては次の2点が挙げられる。

1点目は、地域の諸課題を教材とした学習は、児童・生徒にとって身近で問題意識をもちやすいことである。地域と関わりながら問題を見だし、解決のために主体的に取り組む過程は、まさに主体的・対話的で深い学びであり、求められる資質・能力を育むためにも非常に有効な手法だと考える。

2点目は、学習を通して、学校と地域との関係が深化することである。地域との協働による教育課程があることで必然的に学校と地域との交流の機会が増え、新しいつながりができる。さらに、繰り返し、継続して、学習に取り組むことで、活動の輪が広がり、より多くのつながりを生み出すことができると考える。

一方で、これまでも多くの学校では夏まつりや餅つきなどの地域と協働した行事が行われてきたが、これらの活動は教育課程に位置付けられていないことがほとんどである。学校がこれらの地域材を活用して探究的な学びを構築していくことができれば、社会に開かれた教育課程を通じて、児童・生徒一人一人に未来の創り手

となるために必要な資質・能力を育むことができるのではないかと考える。

そこで、本研究では、主体的・対話的で深い学びを実現するための一手法として地域課題解決型学習を取り上げ、各校それぞれの実態や地域特性に応じた学習をどのように実現していけばよいかを明らかにし、その支援に有効なツールの提案を行う。さらに、私の研修校において支援ツールを活用した単元づくり及び授業実践を行い、その結果を基に各校で地域課題解決型学習を推進するためにどのような支援ができるのかについて探ることを目的としている。

## 2 研究の内容・研究の方法

下記2点について研究を行い、その結果を基に、地域課題解決型学習を推進するための学校支援策について考察する。

### (1)単元デザインシート（支援ツール）の作成

どの学校でもそれぞれの地域や特色に応じた地域課題解決型学習を行えるように単元づくりの支援となる単元デザインシートの作成を行う。

それぞれの学校の地域材をどのように活用すればよいか。また単元計画の作成にはどのような配慮が必要か。さらに、児童・生徒が主体的に探究し、学びを深めていくためにはどのような活動を行えばよいかなど、それぞれに必要な要素を明らかにして支援シートとしてまとめる。

### (2)単元デザインシートによる授業実践支援

作成した単元デザインシートを基に、A小学校において、単元開発及び授業実践の支援を行う。シートを基に、実施学年の担任教諭等と協議しながら実際に単元づくりを支援する活動を通して、本シートの有用性について検証する。また、より効果的なシートになるように改善を図る。

### 3 研究の結果

#### (1) 単元デザインシートの作成

都内小学校等の実践を参考に、単元デザインシートの作成を行った。作成に当たっては、次の2点を重視した。

#### ① 地域・社会との豊かな関わりについて

単元を構想するに当たり、まずは児童・生徒が探究的に関わることのできる教材（人・もの・こと）の検討が必要である。その観点として、「繰り返し関われる専門家がいること」、「児童・生徒にとって身近な問題であること」、「豊かな体験を繰り返し行うことができること」、「集団で追究する価値があること」の4点を取り上げ、「単元成立のポイント」とした（表1）。

表1 地域課題解決型学習 単元成立のポイント(私案)

単元成立のポイント
<input type="checkbox"/> 繰り返し関われる専門家（人）がいるかどうか。 <input type="checkbox"/> 学区内在住で学習課題に関わりのある方 <input type="checkbox"/> 区役所等で学習課題に関わる仕事をしている方 <input type="checkbox"/> 企業のCSR活動やNPO団体で学習課題に関わる取組をしている方 <input type="checkbox"/> 大学機関等で学習課題に関わる研究をしている方 <input type="checkbox"/> 校内や近隣校で学習課題の詳しい方
想定するゲストティーチャー（⇒地域コーディネーターに依頼）
<input type="checkbox"/> 児童にとって身近な問題であり、地域で取り組むことができるかどうか。 <input type="checkbox"/> 学習課題について自分の関わりの中で調べることができる。 <input type="checkbox"/> 調べたことをまとめ、地域に発信することができる。 <input type="checkbox"/> 教科等の学習内容との関連を図れる。
<input type="checkbox"/> 豊かな体験活動を、繰り返し行うことができるかどうか。 <input type="checkbox"/> 「体験」と「言葉活動」を重視する学習指導要領の方向性を意識する。 <input type="checkbox"/> 「机上での調べ学習」や「話し合い活動」が中心にならないように考慮する。
<input type="checkbox"/> 集団で追究する価値があるかどうか。 <input type="checkbox"/> 集団で追究することによって学びが深まる学習課題である。

#### ② 探究的な学習の確立を目指して

総合的な学習の時間における探究的な学習のサイクルを基に、「課題発見」「調査」「実践」「発信」という地域課題解決型学習の四つのステップを考えた（表2）。特に調べたことを学校内外に「発信」することは、学校が特色ある教育活動として継続して取り組むためにも有効であると考えた。

#### (2) 単元デザインシートを活用した支援

単元デザインシートを基に、A小学校において新たな単元計画の作成及び授業実践の支援を行った。小学校第5学年を対象に、身近な環境問題である「食品ロス」をテーマに取り組んだ。

「繰り返し関われる専門家」として、区のごみ対策担当課の方に来ていただき、導入での講話や学習支援、成果発表時の講評をしていただいた。さらに、フードバンクNPO団体の方など多くのゲストティーチャーを招き、児童が専門家との関わりながら学習を進めていけること

を重視した。

### 4 研究の考察

児童に、学習前と後で、自分の考えや生活、行動など変わったところがあるか尋ねたところ、肯定率は82.2%だった。「食べ残しを減らす努力をするようになった」、「賞味期限や消費期限

表2 地域課題解決型学習 4つのステップ(私案)

<b>ステップ1 課題発見</b> 目標：学習課題について知り、興味・関心をもつ ☆活動例 <input type="checkbox"/> 学習課題について詳しい方から話を聞く <input type="checkbox"/> まず体験してみる。 <input type="checkbox"/> 話を聞いたり、体験したりした感想を交流し、疑問やさらに知りたいことをまとめる。 <input type="checkbox"/> 今後の学習計画をたてる。 ☆ポイント 学習課題に詳しい方をゲストティーチャーとして招き、話を聞いたり実際に体験したりし、興味・関心を深める活動を行う。 ※児童・生徒が興味・関心を高める提案性のあるものに留め、学習意欲を高める。
<b>ステップ2 調査</b> 目標：自分で見いだした課題について情報を集める ☆活動例 <input type="checkbox"/> 関わりのある人へインタビューする。 <input type="checkbox"/> 図書資料等を探す。 <input type="checkbox"/> 疑問をまとめ、再度ゲストティーチャーから話を聞く。 ☆ポイント 児童・生徒が自己の課題探究を進められるよう、場を整える。 ゲストティーチャーに再度来ていただき、新たな疑問を質問できるようにする。 <input type="checkbox"/> 学校図書館（学校司書）との連携 <input type="checkbox"/> 専科教員、養護教諭、栄養士等との連携 <input type="checkbox"/> 地域での調べ学習（インタビュー）ができるように要請 <input type="checkbox"/> 家庭への周知
<b>ステップ3 実践</b> 目標：調査したことを基に、自分でできることを実践する。 ☆活動例 <input type="checkbox"/> 学校や家庭で実践できるものを行い、紹介する。 <input type="checkbox"/> 学校や地域への啓発ポスター等を作成する。 ☆ポイント 調べることだけに留めず、自分でできることを考え実践できるように支援する。
<b>ステップ4 発信</b> 目標：調べたこと、実践したことを発信し、次の活動につなげる。 ☆活動例 <input type="checkbox"/> 活動の報告会を開き、保護者や下級生に発表する。 <input type="checkbox"/> 地域や教育委員会で開催されているフォーラム等に出席し発表する。 ☆ゲストティーチャーに活動の報告をするともに、次の活動につながる視点ももらう。また、活動が単年で終わらないよう、下級生に発信するなどが考えられる。

を確認するようになった」などの回答が多く見られ、「食品ロス」について多くの児童が主体的に学習に取り組んでいたことがうかがえる。また、担任教諭等からは「学校の中に留まらない学習の広がりがあった」、「人から学ぶことを体験できた」とゲストティーチャーから学ぶことの価値について聞くことができた。A小学校では次年度も引き続き「食品ロス」について取り組む予定であり、今後さらなる活動の広がり、地域連携の深まりが期待できる。これらから、今回の単元デザインシートの視点は、ゲストティーチャーとのつながりや探究的な学びのサイクルを意識して単元構成するのに有効だと考える。

今回は小学校での実践であったが、本シートはどの学校でも地域課題解決型学習の実施を支援することを目的としていることから、引き続き実践を重ね、その有効性について検証し、改善を図っていくことが今後の課題である。

## 5 今後の展望

### ①各校の総合的な学習の時間の更なる充実

本シートを活用することで、防災、商店街、自然、福祉などの他のテーマでも単元づくりを行うことができ、各校の総合的な学習の時間の充実につながると考える。

### ②カリキュラム・マネジメントの推進

本シートを活用することで学校の教材を再確認することができ、他の教科との関連を図りながら充実した教育活動を推進するなど、カリキュラム・マネジメントの推進につながると考える。

### ③学校訪問等を行う際の学校分析への活用

各校における社会に開かれた教育課程、地域課題解決型学習を推進する際に、本シートを活用し、各校の特色を生かした教育活動を支援することができると思う。